

月刈藻集

作者未詳。江戸前期。古来の説話を集めたもの。左の説話は古くは『沙石集』の巻第三の「六 小児の忠言の事」にあり、『本朝孝子伝』などにもとられている。

人語テ云ク。信濃國ニ有レ人。京ヨリ人ヲ思テ具シテ下リニケル。此女京ニテモモノ申人アマタ有ケル。如此人ニ具シテクダリケレトモ。シノビテフミナドトリカワシケル。アマタニナリケレハ。カクシテ見ケリ。人アリテカヽルコトアリト男ニツゲタルニ。是ヲ男キイテ。心ヨカラズ。女ノ知ラヌ様ニシテトリ出シ。男ハモノカヽザリケレハ。繼子ノアリケルニ戸隠ニ登テキタリシヲヨビテ。母ノ前ニテヨマセタリ。母色ヲウシナイテ肝心モ身ニソハテアリケルニ。此子心アルモノニテ。タゞヨノ常ノフミノヤウニ。アマタノフミヲヨミカヘタレハ。サテハ人ノサカシラナリトテ。ナニトモイハデアリケル。此母アマリニウレシク思テ。イタイケシタルモノトヽノヘテ。此子ノ許ヘヤリケルニ。此歌ヲ書付タリ。

信濃ナル木曾路ニカクル丸木橋文見シ時ハ危ウカリシヲ

此繼子カヘシ。

信濃ナルソノハラニシモ宿ラネト皆ハ、キ、箒木ト思フハカリゾ

註 『群書類從』 続二十三輯上雜部卷 960 所収。